



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月10日

上場会社名 株式会社中村屋 上場取引所 東
 コード番号 2204 URL <https://www.nakamura.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 島田 裕之
 問合せ先責任者（役職名） 取締役兼執行役員（氏名） 弘中 雅裕 (TEL) 03-5325-2733
 半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	12,496	△1.7	△1,930	—	△1,802	—	△1,327	—
2025年3月期中間期	12,717	0.0	△1,857	—	△1,772	—	△1,223	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△229.81	—
2025年3月期中間期	△210.65	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	46,289	26,174	56.5
2025年3月期	43,509	27,038	62.1

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 26,174百万円 2025年3月期 27,038百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	—	—	70.00	70.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,700	1.2	660	△38.3	860	△32.7	520	△41.2	90.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	5,976,205株	2025年3月期	5,976,205株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期中間期	200,520株	2025年3月期	199,909株
-------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（中間期）

2026年3月期中間期	5,776,075株	2025年3月期中間期	5,806,789株
-------------	------------	-------------	------------

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間損益計算書関係)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間における菓子・食品業界は、インバウンド需要やサービス消費の回復により緩やかな回復基調を維持しました。一方で、原材料価格や人件費の高騰、エネルギー価格の高止まりなどによる物価上昇、実質賃金の伸び悩みが個人消費を抑制し、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社は「中期経営計画－中村屋2027ビジョン－」に掲げた基本方針に基づき、構造改革と売上拡大の基盤づくりを進めてまいりました。

具体的には、菓子ビジネスでは、ギフト商品のカジュアル化を進めるとともに、日常使いの‘デイリー菓子’の定番化を目指し季節品の拡充などの施策を行いました。中華まんビジネスでは、春夏の需要創造を目指し季節限定の新商品を展開するとともに、量販店での試食販売を行い、朝食としての利便性を訴求することで、中華まんが年間を通じて「手軽に食べられる食」として定着するための取組みを継続しました。食品ビジネスでは、市販食品・業務用食品とともに、新商品の投入やレストランで培った調理技術を活かした商品の開発・提案を通じ、売上の拡大に努めました。また、原価高騰に対応するべく、不採算商品、不採算販路の集約などによる生産性向上や業務効率化によるコスト削減を図るとともに、一部の商品において価格改定や規格変更を実施し、収益体質の強化を図りました。

以上のような営業活動の結果、当中間会計期間の売上高は、12,495,769千円 前年同期に対し221,168千円の減収となりました。

利益面では、神奈川工場の一部閉鎖に伴う、固定資産の耐用年数の短縮及び基幹システムの更新による一時的な費用増加の影響により、営業損失は1,930,131千円 前年同期に対し73,318千円の減益、経常損失は1,802,031千円 前年同期に対し29,649千円の減益、中間純損失は1,327,419千円 前年同期に対し104,196千円の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 菓子事業

菓子類では、親しい間柄で贈り合うギフトの需要拡大に対応するため、主力商品「月の菓」と新商品「月の菓栗」を詰め合わせた「月の菓詰合せ」を新発売しました。夏のデザート類では、あんみつを詰め合わせた「夏あつめ」を新発売し、多様化するギフト需要への対応に努めました。キャラメル菓子専門ブランド「CAMEL MONDAY」は、より身近なシーンでもお楽しみいただけるよう、量販店等で展開する姉妹ブランド「CAMEL MONDAYの朝」の展開を開始しました。

日常使いの‘デイリー菓子’類では、本格的な仕立ての「逸品どら焼」と、専門店の味わいを量販店で手軽にお求めいただける「どら焼」シリーズの製法見直しによる品質改良を実施し拡販を図りました。また、シーンを選ばず「好きな時に好きなものを食べられる喜び」を提供するため、「少量・食べきりサイズでも満足できる、濃厚な味わい」をコンセプトにした「ちょこっとわらび黒糖」「ちょこっと安納芋」の2品を新発売しました。

中華まん類では、量販店販路向け「肉まん」「あんまん」などを電子レンジでそのまま温められる個包装の簡便性を訴求し通年販売の強化を継続するとともに、「辛肉まん」を発売して春夏期での需要拡大を図りました。コンビニエンスストア向け商品は、基本商品である「肉まん」「ピザまん」「ごまあんまん」「大入り豚まん」の改良発売を行いました。

新宿中村屋本店「スイーツ&デリカBonna」では、「手焼きどらやき」「窯出しフィナンシェ」など店内工房手づくり商品が好調に推移しました。また、6月12日の「恋と革命のインドカレーの日」より、定番商品である「新宿カレーパン」「新宿ピロシキ」の揚げたて販売を実施し、お客様からご好評をいただきました。

以上のような営業活動を行いました。前年に閉鎖した店舗の売上減少等により、菓子事業全体の売上高は7,186,562千円、前年同期に対し359,803千円、4.8%の減収となり、営業損失は1,241,878千円、前年同期に対し7,938千円の減益となりました。

② 食品事業

市販食品では、消費者ニーズに合わせた商品開発を積極的に行いました。レトルトカレーでは、昨年度に新たなユーザーの獲得を目的に発売した「THE濃厚シリーズ」の第3弾商品「THE濃厚ブラックスパイスカレー」を発売し、多様化するニーズに対応しました。中華レトルトでは、大きく市場が拡大する本格志向のレトルト麻婆豆腐市場において、シェアの獲得に向けて「本格四川」シリーズの「鮮烈麻婆豆腐」を刷新しました。

業務用食品では、中食販路においてコンビニエンスストア向けカレーの拡販を図りました。外食販路においては、カフェチェーンに対して調理技術を活かしたコラボメニューを開発し、拡販を推進しました。

新宿中村屋本店「レストラン&カフェManna」「カジュアルダイニングGranna」では、6月12日の「恋と革命のインドカレーの日」よりスパイスコア技術を生かした「ピリヤニ」を販売し、お客様からご好評をいただきまし

た。

以上のような営業活動を行った結果、食品事業全体の売上高は4,849,530千円、前年同期に対し145,783千円、3.1%の増収となりましたが、原材料価格の高騰による影響等により、営業利益は316,841千円、前年同期に対し9,266千円の減益となりました。

③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業では、商業ビル「新宿中村屋ビル」において、適切な施設管理による快適な商業空間の提供に努め、満室稼働を維持しました。

また、武蔵工場（埼玉県入間市）の敷地の一部及び旧東京事業所敷地（東京都渋谷区）から地代収入を得ることで、保有する土地を有効に活用しました。

以上のような営業活動を行いました。一部店舗の賃料改定の影響により、売上高は459,677千円、前年同期に対し7,149千円、1.5%の減収となり、営業利益は225,529千円、前年同期に対し17,093千円の減益となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間会計期間末における総資産は、現金及び預金の減少899,086千円、売掛金の減少522,621千円等がありましたが、土地の増加1,422,355千円、投資有価証券の増加1,276,949千円、商品及び製品の増加1,077,344千円等により、前事業年度末に比べ2,779,850千円増加し、46,288,803千円となりました。

負債は、退職給付引当金の減少205,319千円、資産除去債務の減少150,986千円等がありましたが、長期前受収益の増加3,317,047千円、買掛金の増加419,423千円等により、前事業年度末に比べ3,643,725千円増加し、20,114,730千円となりました。

純資産は、中間純損失1,327,419千円等による利益剰余金の減少等により、前事業年度末に比べ863,874千円減少し、26,174,073千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ、899,087千円減少し、1,716,580千円となりました。

区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,207,450千円の収入（前年同期は587,492千円の収入）となりました。これは主に、税引前中間純損失△1,863,499千円、棚卸資産の増加額△1,459,283千円等があったものの、長期前受収益の増加額3,317,047千円、減価償却費885,788千円、売上債権の減少額522,621千円等があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、2,055,711千円の支出（前年同期は559,802千円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出△1,927,973千円等があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、50,825千円の支出（前年同期は8,016千円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の増加額400,000千円等があったものの、配当金の支払額△400,993千円等があったことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期の業績予測につきましては、2025年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,616,883	1,717,797
売掛金	4,368,594	3,845,973
商品及び製品	1,448,739	2,526,083
仕掛品	44,127	49,101
原材料及び貯蔵品	2,147,662	2,524,627
その他	576,334	798,026
流動資産合計	11,202,339	11,461,607
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,332,274	6,969,077
構築物(純額)	643,621	612,158
機械及び装置(純額)	2,066,271	2,153,996
車両運搬具(純額)	978	853
工具、器具及び備品(純額)	206,009	185,737
土地	13,072,558	14,494,913
リース資産(純額)	966,694	852,979
建設仮勘定	86,969	165,134
有形固定資産合計	24,375,373	25,434,847
無形固定資産		
その他	255,530	471,066
無形固定資産合計	255,530	471,066
投資その他の資産		
投資有価証券	6,529,882	7,806,831
関係会社株式	536,056	389,221
前払年金費用	—	182,746
その他	611,403	544,116
貸倒引当金	△1,631	△1,631
投資その他の資産合計	7,675,710	8,921,284
固定資産合計	32,306,614	34,827,196
資産合計	43,508,953	46,288,803

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,234,747	1,654,171
短期借入金	—	400,000
リース債務	91,944	90,878
未払金	1,357,747	1,546,822
未払費用	486,192	479,997
未払法人税等	43,745	52,768
賞与引当金	696,810	562,730
その他	564,182	545,087
流動負債合計	4,475,367	5,332,453
固定負債		
リース債務	403,101	379,485
繰延税金負債	3,713,084	3,562,619
退職給付引当金	555,552	350,233
資産除去債務	254,002	103,016
長期前受収益	6,538,734	9,855,781
受入保証金	531,166	531,143
固定負債合計	11,995,638	14,782,277
負債合計	16,471,006	20,114,730
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,469,402	7,469,402
資本剰余金		
資本準備金	6,410,455	6,410,455
その他資本剰余金	1,688,664	1,688,664
資本剰余金合計	8,099,120	8,099,120
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	3,072,570	3,035,649
別途積立金	5,204,932	5,204,932
繰越利益剰余金	1,044,323	△650,516
利益剰余金合計	9,321,826	7,590,065
自己株式	△645,906	△647,824
株主資本合計	24,244,442	22,510,764
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,793,506	3,663,310
評価・換算差額等合計	2,793,506	3,663,310
純資産合計	27,037,947	26,174,073
負債純資産合計	43,508,953	46,288,803

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	12,716,937	12,495,769
売上原価	9,063,825	8,943,531
売上総利益	3,653,113	3,552,237
販売費及び一般管理費		
販売費	4,318,324	4,251,745
一般管理費	1,191,602	1,230,623
販売費及び一般管理費合計	5,509,926	5,482,368
営業損失(△)	△1,856,813	△1,930,131
営業外収益		
受取配当金	89,160	112,739
受取保険金	8,845	4,974
その他	16,179	19,359
営業外収益合計	114,185	137,073
営業外費用		
支払利息	12,193	7,344
支払補償費	9,000	—
控除対象外消費税等	7,079	—
その他	1,481	1,628
営業外費用合計	29,753	8,972
経常損失(△)	△1,772,382	△1,802,031
特別利益		
資産除去債務戻入益	—	93,185
特別利益合計	—	93,185
特別損失		
固定資産除却損	2,992	3,262
減損損失	4,426	4,557
関係会社株式評価損	—	146,835
特別損失合計	7,418	154,653
税引前中間純損失(△)	△1,779,800	△1,863,499
法人税、住民税及び事業税	742	14,545
法人税等調整額	△557,319	△550,624
法人税等合計	△556,576	△536,079
中間純損失(△)	△1,223,224	△1,327,419

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△1,779,800	△1,863,499
減価償却費	740,011	885,788
減損損失	4,426	4,557
資産除去債務戻入益	—	△93,185
賞与引当金の増減額(△は減少)	△290,951	△134,080
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△348,304	△205,319
前払年金費用の増減額(△は増加)	—	△182,746
受取利息及び受取配当金	△89,198	△113,244
支払利息	12,193	7,344
為替差損益(△は益)	42	689
有形固定資産除却損	2,992	3,262
関係会社株式評価損	—	146,835
売上債権の増減額(△は増加)	819,335	522,621
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,586,275	△1,459,283
仕入債務の増減額(△は減少)	225,190	419,423
未払金の増減額(△は減少)	29,512	82,921
未払消費税等の増減額(△は減少)	△181,931	△127,980
前受収益の増減額(△は減少)	118,027	117,736
長期前受収益の増減額(△は減少)	3,317,047	3,317,047
その他	△274,599	△250,009
小計	717,717	1,078,877
利息及び配当金の受取額	86,493	111,942
利息の支払額	△12,132	△7,344
法人税等の支払額	△204,586	△11,436
法人税等の還付額	—	35,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	587,492	1,207,450
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	928	—
有形固定資産の取得による支出	△457,002	△1,927,973
無形固定資産の取得による支出	△64,923	△169,934
投資有価証券の取得による支出	△6,549	△6,986
投融資による支出	△37,939	△911
投融資の回収による収入	17,494	50,093
資産除去債務の履行による支出	△11,810	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△559,802	△2,055,711
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400,000	400,000
リース債務の返済による支出	△44,365	△47,914
自己株式の取得による支出	△1,218	△1,918
配当金の支払額	△346,401	△400,993
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,016	△50,825
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	35,689	△899,087
現金及び現金同等物の期首残高	1,136,514	2,615,667
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,172,203	1,716,580

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間損益計算書関係)

業績の季節的変動

当社の売上高は、主力商品の特性から冬季に需要が高く、上半期(4月～9月)と下半期(10月～3月)の業績に季節的変動が生じております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	菓子事業	食品事業	不動産 賃貸事業	
売上高				
一時点で移転される財又はサービス	7,546,365	4,703,747	—	12,250,112
顧客との契約から生じる収益	7,546,365	4,703,747	—	12,250,112
その他の収益	—	—	466,826	466,826
外部顧客への売上高	7,546,365	4,703,747	466,826	12,716,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	7,546,365	4,703,747	466,826	12,716,937
セグメント利益又は損失(△)	△1,233,940	326,107	242,622	△665,211

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△665,211
全社費用(注)	△1,191,602
中間損益計算書の営業損失(△)	△1,856,813

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「菓子事業」セグメントにおいて1,201千円、「食品事業」セグメントにおいて、3,225千円の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間会計期間において4,426千円であります。

Ⅱ 当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	菓子事業	食品事業	不動産 賃貸事業	
売上高				
一時点で移転される財又は サービス	7,186,562	4,849,530	—	12,036,092
顧客との契約から生じる収益	7,186,562	4,849,530	—	12,036,092
その他の収益	—	—	459,677	459,677
外部顧客への売上高	7,186,562	4,849,530	459,677	12,495,769
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	7,186,562	4,849,530	459,677	12,495,769
セグメント利益又は損失(△)	△1,241,878	316,841	225,529	△699,508

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	△699,508
全社費用(注)	△1,230,623
中間損益計算書の営業損失(△)	△1,930,131

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「菓子事業」セグメントにおいて2,751千円、「食品事業」セグメントにおいて、1,806千円の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間会計期間において4,557千円であります。